

## 兼子 春治 議員

### 津波対策と浅羽の 安全性の強調との整合性は

**問** 本市は海拔5メートル以下の地点を津波避難対象地域に指定し、命山や津波避難タワー等を建設しているが、国の津波高・浸水域の公表を受け、現防潮堤でも津波が防げると思われる。東日本大震災後、浅羽地域は津波の危険がある印象が強いが、安全な住みよい地域であるとPRすることが必要である。そのため、まずは防潮堤の整備が必要と思われるがどうか。

**答** 命山や津波避難タワーの施設整備の考え方は、防潮堤が壊れるなど、最悪の事態を想定した計画となっているため、あと12カ所の整備の必要性を認識している。県の第4次地震被害想定に基づき、津波避難対象地域の見直しを進め、計画についても、必要な検討をしていきたい。また、防潮堤の整備については、県に強く要望していきたい。



現在の浅羽海岸防潮堤

### 施設入所から居宅介護 サービスへの切り替えは

**問** 施設入所は家族の経済的負担が大変で、介護保険制度を維持していくためにも、24時間定期巡回型サービスを普及すべきでは。

**答** 小規模多機能型居宅介護事業所が開設される予定である。24時間定期巡回型サービスは、今後の需要変化を捉える中で慎重に対応したい。

## 廣岡 英一 議員

### 津波対策は道半ば 地域力低下が始まっている

**問** 「命を守る対策」として、10分・500メートル内に、避難場所を整備する方針に変わりはないか。

**答** 県の第4次地震被害想定や津波シミュレーションの結果を踏まえて再検討するが、できるだけ短時間で避難できる対策が必要と考えている。

**問** 「財産を守る対策」として、防潮堤のかさ上げ、海岸砂防林や河川堤防などの強化をどのように考えているか。

**答** 財産の保全に目を向けた津波対策としては、防潮堤や河川堤防の整備、砂防林の強化にも鋭意取り組んでいきたい。関係市と連携を図り、県へ強く要望するとともに、6月以降には協議会を設置し、推進計画を策定していきたい。



建設中の湊地内命山

**問** 浅羽南地区は地価が下落し、また、人口流出が始まり、移転を検討される企業があるなど、地域力が低下している。総合特区に指定された沿岸部の事業構想は、地域振興になるか。

**答** 本市が提案している構想は、浅羽南部地域の振興策が基本である。仮に事業所が内陸部へ移転した場合にも、跡地の整備について、国へ財政支援制度の創設を求めるものである。